

－ 個人投資家の上場株式の投資単位に関する意識調査結果について －

2022年11月15日
日本証券業協会

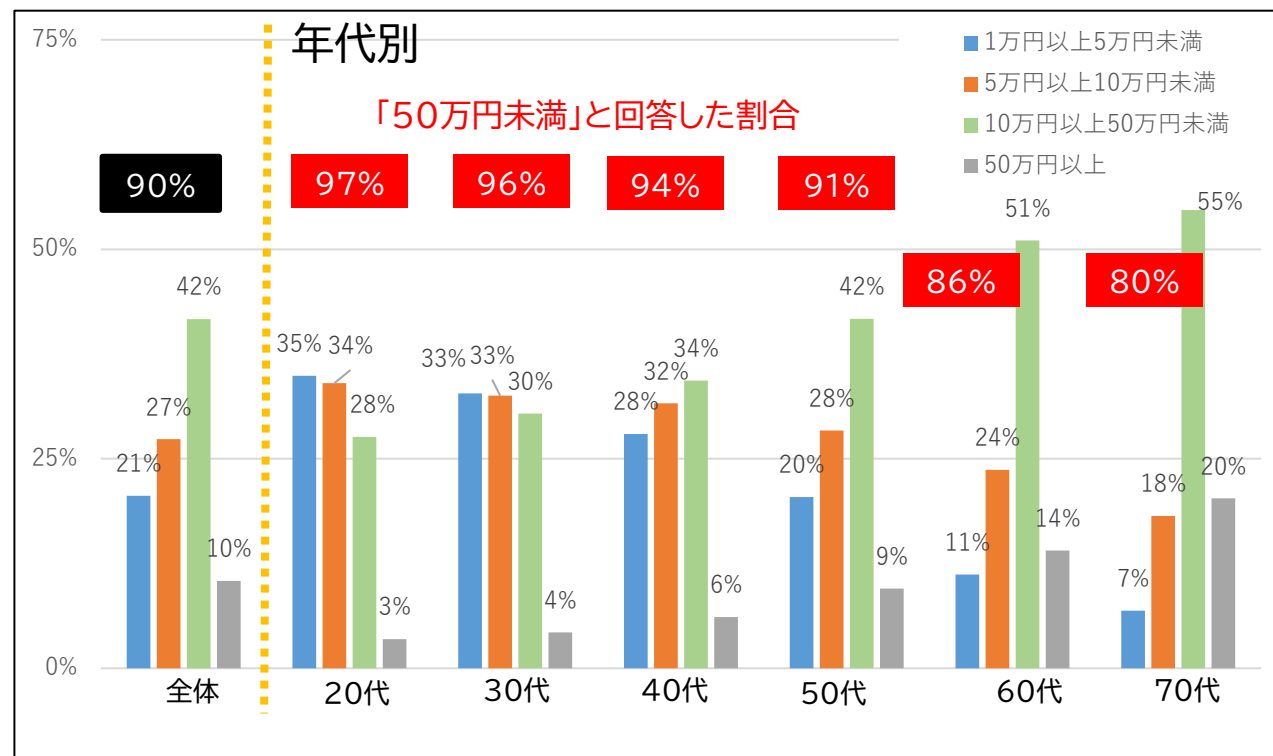
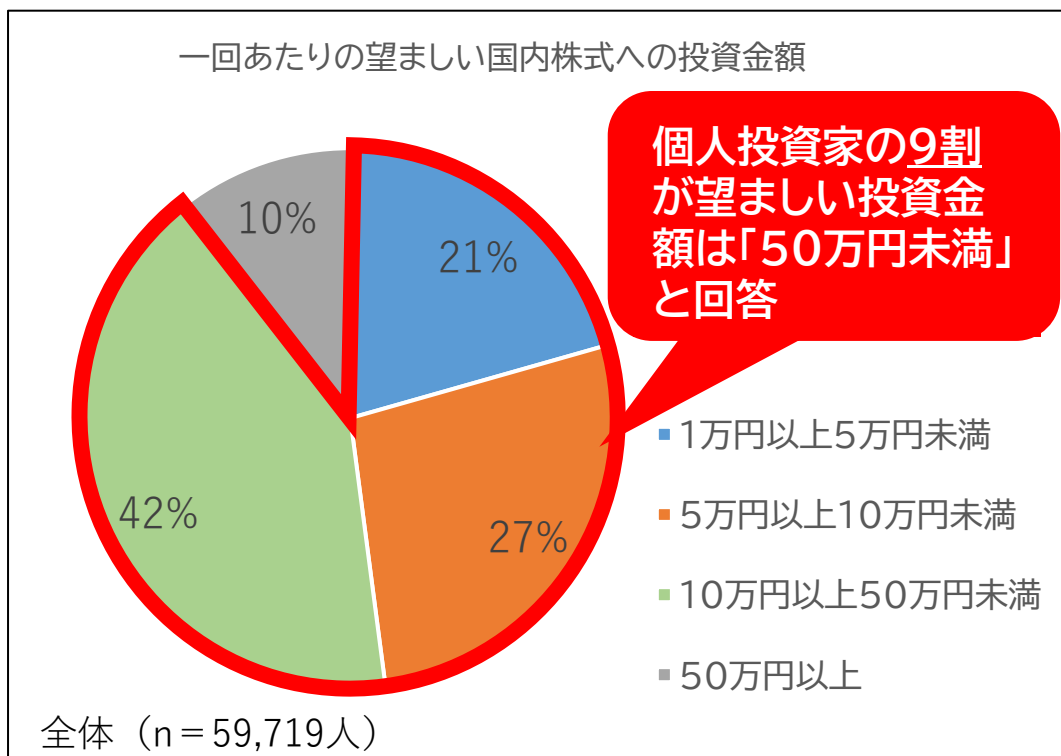
- 日本証券業協会の証券戦略会議の下部機関である業態別評議会のインターネット証券評議会(議長 楽天証券 楠 雄治 代表取締役社長)では、株式投資単位の水準が個人投資家の投資行動に対し、どのように影響しているのかについて客観的なエビデンスを集めるために同証券評議会の有志会社9社により、個人投資家に対し意識調査を行いました。
- 今般、その調査結果を取りまとめましたので、下記のとおりご報告いたします。

- 実施形態: Web上のアンケートサイトにて回答
- 実施期間: 2022年10月13日～19日
- 実施会社 : インターネット証券評議会の委員会社有志9社
- 回答者数: 59,719人

●個人投資家意識調査の結果

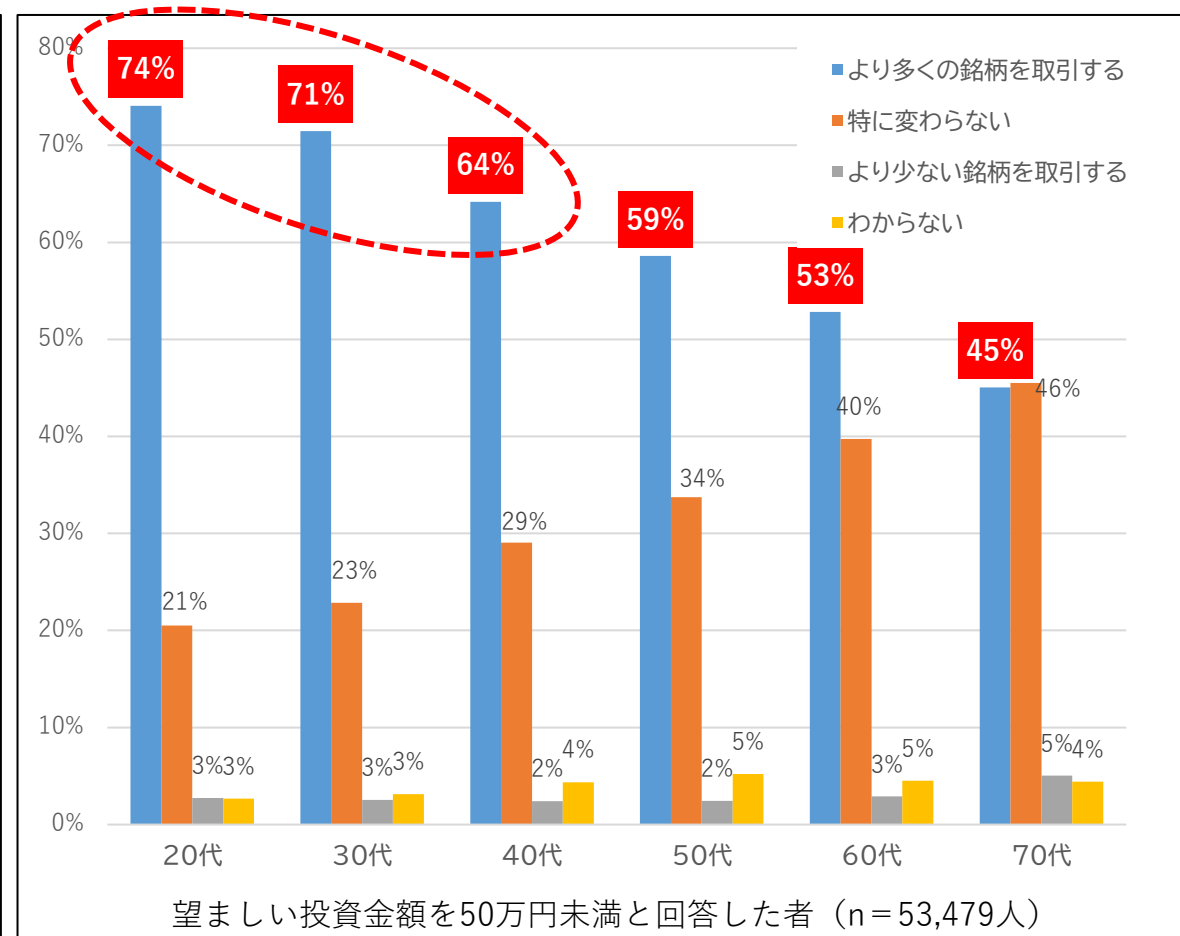
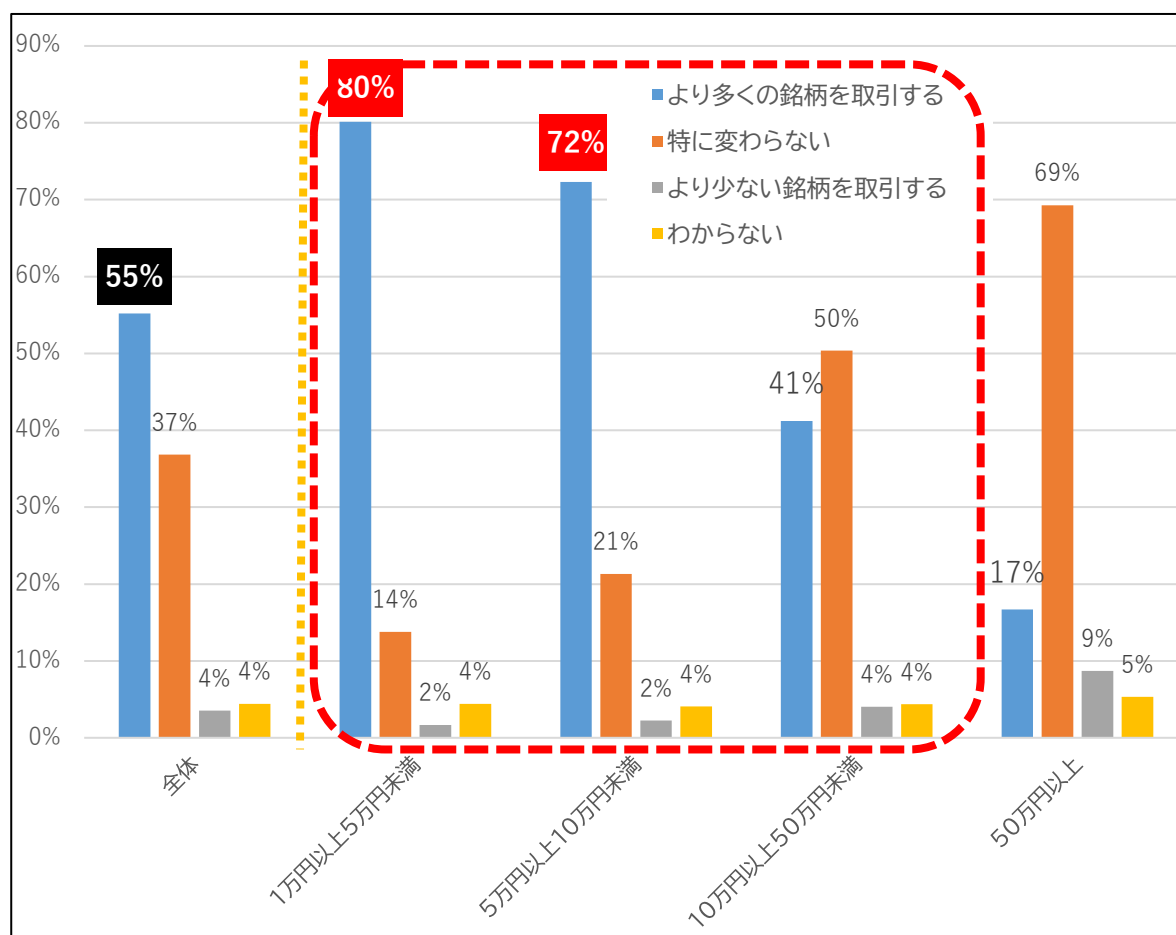
- 国内株式の投資金額として、一回の取引あたりの望ましい投資金額としては、
「50万円未満が望ましい」という回答が9割。
- 20代～50代は、特にその傾向が高い。

Q.国内株式への投資金額として、一回のあたりの投資額はいくらが望ましいですか？



- 「望ましい投資金額」で取引できる場合、**半数以上の者が「より多くの銘柄を取引する」と回答**。また、「望ましい投資金額」が少額になるほど、その回答の割合が高い。
- 20代～40代は、特にその傾向が高い。

Q. 1回当たりの「望ましい投資金額」にて投資できるとしたら、投資する銘柄数はどのように変わりますか？



●まとめ

- 国内株式の一回の取引あたりの望ましい投資金額として、個人投資家の9割が「50万円未満」と回答している。
- 「望ましい投資金額」が少額なほど、「より多くの銘柄を投資する」と回答、つまり、投資単位の小口化は、分散投資の効果も期待できると考えられる。
- このため、個人投資家のより投資しやすい環境の整備の一環として、全ての上場会社の株式が「望ましい投資単位の水準」となることが望ましい。